

WHAT'S LIVE

vol. ⑤ 10th Anniversary

WHATSの
キッカケ発信ペーパー



www.whatsinc.jp

WHATS inc.

2F. 1-4-23 Nishi-Azabu
Minato-ku Tokyo Japan
106-0031
T. 03 5414 1313
F. 03 3403 1318

check our works!

ホームページからフリーペーパーの
バックナンバーがダウンロードできます

おかげさまで WHATS は 10 周年を迎えました

おかげさまで WHATS は 11 月 22 日をもちまして 10 周年を迎えました。10 年前、法人の銀行口座の作り方も知らず、将来の事もさほど考えず、「ダメだったら土方作業をすればいいや」という若さ故の勢いで創った会社です（今もその気持ちは持ってます）。今考えると怖いモノ知らずでした（笑）。今の僕らがあるのは、そんな僕らを応援していただいているお客様はじめ、前職場の東京デザイン工房の渡辺社長、各協力業者の皆様、凄く大切な周りの友人の皆様、一緒に苦楽を共にしているスタッフ、家族のおかげだと思っています。

WHATS フリーペーパーとは？



クライアント様が
ハッピーになる
ためのツール



楽しさを共有し、
伝え合う



WHATS の
ことを、より深く
知ってもらう



『私たちがつくるのはつながりです』

—お二人の専門学校時代の出会いと印象からお願いします。

関 金髪にロンゲで日に焼けて黄色いパンツ穿いて、TRF の DJ KOO みたいな感じでちょっとヤバい奴がウチの学校にいてって思った（笑）

藤 関根ちゃんは友達飲み会で知り合って、いつも飲みに行ってた印象。それで知らないうちに仲良くなってたかな。専門のときはぼぼ遊んでたね。

関 16 時くらいに飲み屋に行って 1 杯 100 円のお酒を 30 杯とか頼んで、18〜19 時にはもうベロンベロンになって、センター街でナンパして失敗して帰ると（笑）

—卒業してから独立まではどのような経緯だったのですか？

藤 僕は東京デザイン工房っていう会社に入ったんだけど、ニューヨーク



に行きたかったから 1 年で辞める約束してて。で、1 年後、社長に代わりに誰か入れろと言われたんで関根ちゃんを紹介した。

関 でも、一緒にサッカー見に行こうと誘われただけで、入るとか聞いてなくて。その後ご飯食べた時に社長から「明日から来なよ」と言われて「え？何をですか」って感じて。

藤 僕は 3 年後に帰ってきて、その頃には関根ちゃんは 3 年キャリアを積んでいて、僕はイチからやり直して、そこから 5 年間くらい同じ会社で働いたかな。それでお互いの仕事を見て、価値観や感性も合うし 30 歳を前にして 2 人でやってみようかなと。

—WHATS ができたきっかけは？

関 前の会社が自分たちのやりたいことと違うってなっているというのはずっと感じてて。そろそろ自分たちでやろうかと考えてた時に、タイミングよく社長に呼ばれて「お前らこの先どうやって仕事したい？」と言われたんで、「いや、もうやめます」と。そこから新事務所できり始めて。仕事は来な



くてダメなら土方とかやればいいやと思ってた。

—2 人でやっていける自信はありました？

関 自信は無かったよ。ただやるしかなかった。あとはお客さんかな。前の会社のときから可愛がってくれたお客さんがそれぞれいて。

藤 今も相変わらず可愛がってくれるんで。自分たちでやってみて、本当にお客様に助けられて生きているって実感しましたね。

—最初の中目黒の事務所はどんな感じだったのですか？

関 いい事務所でしたね。中目黒っていう街も好きだったし。引っ越した最大の理由はエアコンが効かないっていう。あの田原さんがキレそうになった（笑）

—仕事は順調でしたか？

藤 本当に忙しかったんだけど、半年くらいでちゃんと形に残る礎が金銭面でも仕事の面でもお客さんと作らせてもらったので、後は流れに乗っ



て改善を重ねながらやっていって。歌いながら陽気にね。

関 夕方 17 時くらいになると長洲剛がかかるんだよね（笑）

藤 1 人が歌うと、もう 1 人が歌うの（笑） そんなこんなで 20 時とか 21 時まで仕事して、そこから飲みに行く？ って大樽（居酒屋）行って（笑）。WHATS って名前もそこで決めて。あまり意味を持たせたくなくて、響きでいこうかと話をしてて、ワッツなんか良いんじゃないの？ って。後付けで、英語だと WHAT だけでも「何かを追求しよう」って意味で。一毎年、創設日に記念アイテムも作っていると伺いました。

関 主に T シャツなんだけど、会社に着用を持ってもらいたいのと、着てれば会社の宣伝になるし、後は自己満足（笑）

—そしてスタッフが入ってきました。エピソードはありますか？

関 田原さんは、履歴書を見てこの子を雇わなかったらやばいでしょうってくらいちゃんと書かれてた。仕事が終わる度に「何か仕事ください」ってすぐ聞きにきたし、休日の朝に出さなきゃいけないゴミ出しをわざわざ越



谷から捨てるだけに来てくれた。

藤 彼女が来てから会社の雰囲気が変わったよね。みんな言葉遣いとか直ったし、その当時は本当乱暴だったから（笑）

関 極端に言えば「死ぬ」とかさ（笑）

藤 学生のときからの付き合いだからね。それまでは友達として仲良くやっていただけど、田原さんが入ってからは会社として捉える様になって、ひとつステップアップしたかなって。

—小林さんと時田さんについては？

藤 こばちゃんは最近結婚してすごくプロ意識が高くなったかな。アフターとかの対応がものすごく早くなった。ウチは面接で作品はあんまり見ないんだよね。話してみてもどういふ人なのかって所を重要視するから。こばちゃんは手ぬぐいの作品を持ってきたんだけど、プロからしたらどーでもいいの（笑）でも凄くそれを熱心に説明してて。その目を見た時に「あ、



この子は真面目でデザインに対して前向きだし、良い子なんだな」っていうのが。作品はアレでしたけど（笑）

関 時田くんはこばちゃんの後輩なんだけど、そのときも面接で作品の手ぬぐい持ってきた（笑）「それ見た見た、手ぬぐいでしょ」って（笑）時田くんは業者さんとかの評判が今までの誰よりもすこぶるいいの。不思議なくらい。全くの未経験者だけど、シェフ時代の経験で視野は少し広いのかなって思っている。

—WHATS さんと関わりの深い方々のエピソードはありますか？

藤 携わってくれている職人さんたちには感謝の一言。みんな良い人たちばかりだから。「WHATS のためだったらいいよ」とか「WHATS だったらやってあげるよ」とか言ってくれる人たちが多いのが非常に嬉しい。なので応えなきゃいけないっていうのが、モチベーションもあがるし、本当に色々対応してもらえる職人さんがいるっていうのがウチの財産かな。

—10 周年を迎えて、これからの目標を教えてください。



関 10 周年を機に経営理念を「つながりをつくる」に変えて。つくることによって、色んな人と繋がっていくし、今までも人との繋がりがあって自分たちがいたと。そういう繋がりをつくるためには自分も成長させなきゃいけないし、色んな意味があるから、その方が発信できるし、見た人にも色んな意味でとってこれたりしやすいかなと。

—夢はありますか？

関 今までもそうなんだけど、スタッフのみんなや、これから関わってくれる人たちが幸せだと思う環境ができて、その分仕事で頑張れる会社でありたいっていうのが夢。言うならばお付き合い頂く会社さんや個人の方とかもウチと取引してハッピーになればいいなと思ってる。

藤 今はインテリアデザインをやっているけど、もしかしたら 10 年後はコンサルタントをやっているかもしれない。お客様に何を提供できるのか、自分達ならこれだったらできるっていうところをお客様に提案していくようなフレキシブルにどんどん変わっていきける会社になりたいし、変わらない会社にはしたくない。

関 僕らが経験したみたいに、この会社いたら自分達のやりたいことができないと感じてしまう会社にはしたくない。何か商売がしたいと思ったらウチでやればいいし、一緒にやろうって思える会社になっていたらいいなと思う。

藤 それが楽しいことをやるっていうことに繋がっていくし、繋がりをつくるってことにも結びついていく。そういうのが WHATS らしさ、僕達らしい仕事に繋がっていくのかなって。

—では、最後にバの言葉をお願いします。

関 お陰様で 10 周年を迎えることができました。今の自分たちがあるのはこれを読んでくださっている、今まで関わってきてくださった全ての方達のおかげです。これからもよろしく願います。それに尽きます。㊤

Team Introduction

「このメンバーで、皆さんのお店をつくっています」



リード工房 <看板>
早い対応で昼夜問わず動き回り、連携プレーで要望通りのお店顔を作り出します。

Kエル電機 <電気>
プライドを持って楽しく仕事をするのがモットー。手掛けた美容室はなんと3000件。顔は恐れけれど心は優しい、知識に富んだ陰の現場監督



組楽工房 <家具>
細部まで気の利いた仕事ぶりで、納めの事は何でも相談できます。家具の事なら何でもお任せあれ！



abex <ディスプレイ業社>
すごい集中力で無理難題にも対応し、華やかにお店を仕上げてくれます。



松塗装 <塗装>
陽気なお父さんと黙々と仕事をこなす息子さんは仲間に優しく、無理な工程でも必ず納めてくれます。技術と信頼の厚い塗装屋さん。



タデシン <家具>
若さとガッツで現場を盛り立て、スピード感のある動きで仕事を締めくくってくれます。横浜のラーメン店『鶏男のり輔』のオーナーという顔も！



小川工業 <水道>
美容室の工事の要。迅速対応でトラブルの時も安心して任せられます。明るく元気な親子はワッツの現場をいつも明るくしてくれます。



和栗工務店 <大工>
困った時の救世主。見事な丸鋸の手さばきとスマートフォンも使いこなすスーパー大工。



ティーブランニングデザイナー 兼現場管理
現場の事は何でも知っている、尊敬出来るデザイナーの先輩



ホネストワン <タイル>
丁寧な働きぶりが仕上がりを光らせます。

